

# 事後評価結果（令和4年度）

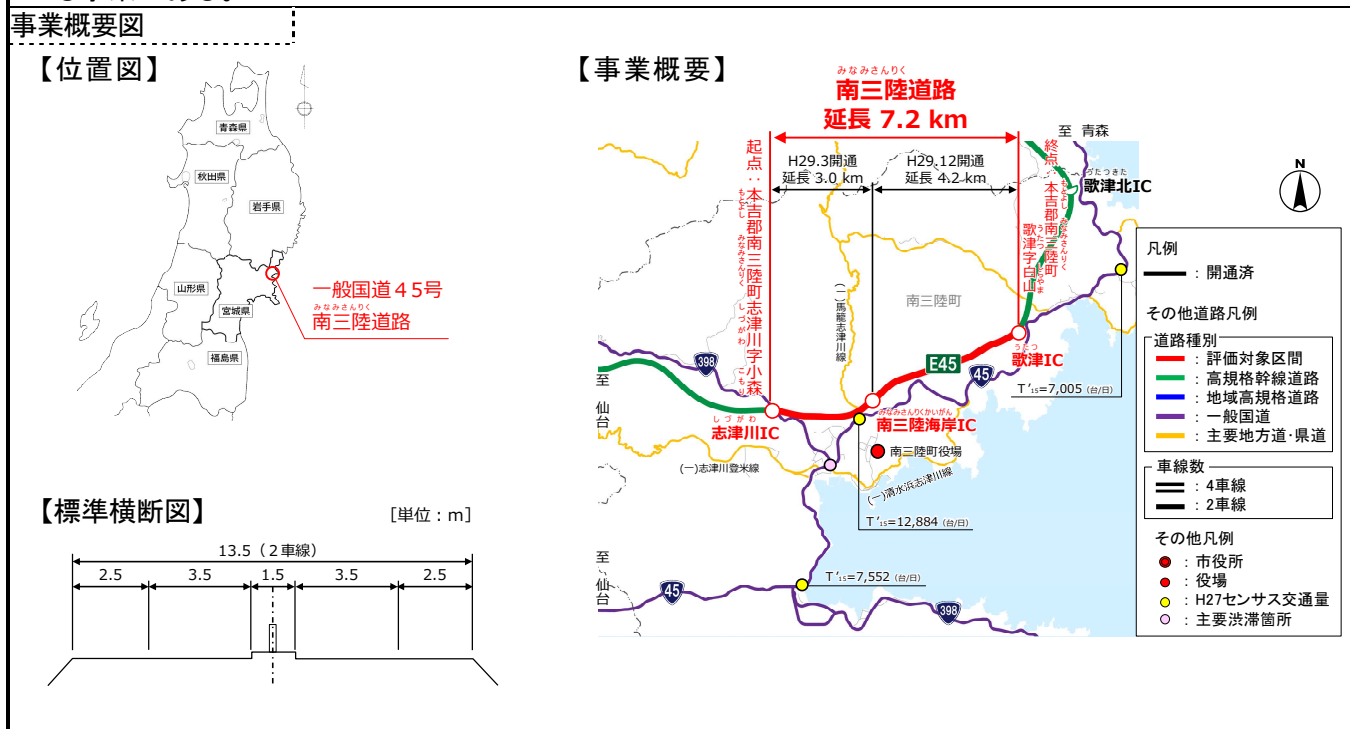
担当課：東北地方整備局 道路計画第一課

担当課長名：柏 宏樹

事業名	一般国道45号(三陸沿岸道路) 南三陸道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：宮城県本吉郡南三陸町志津川字小森 至：宮城県本吉郡南三陸町歌津字白山	延長	7.2 km		

**事業概要**  
 一般国道45号(三陸沿岸道路登米IC~釜石JCT)は、宮城県登米市から岩手県釜石市に至る約111kmの復興道路である。  
 南三陸道路は、三陸沿岸道路の一部を形成し、宮城県本吉郡南三陸町志津川字小森から宮城県本吉郡南三陸町歌津字白山に至る延長7.2km、2車線の自動車専用道路である。

**事業の目的・必要性**  
 南三陸道路は、事故減少、災害時の信頼性の確保、救急医療支援、地域産業支援・物流支援、観光・地域交流支援、南三陸町の復興まちづくりを支援することを目的とした三陸沿岸道路の一部を構成する事業である。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	平成20年度	用地着手	平成22年度	供用年	(当初) - /H29年度	変動	1.0倍
		都市計画決定	—	工事着手	平成23年度	(暫定/完成)	(実績) - /H29年度		
	事業費	計画時	(名目値) — /	238億円	実績	(名目値) — /	291億円	変動	1.2倍
		(暫定/完成)	(実質値) — /	272億円	(暫定/完成)	(実質値) — /	335億円		
	交通量	計画時	(H20)		実績	(R4)		変動	95%
(当該路線)	(暫定/完成)	—/12,600台/日		(暫定/完成)	—/12,000台/日				
旅行速度向上	43.3 → 77.2 km/h		交通事故減少		128.1 → 85.1 件/億台キロ				
	(供用前現道→当該路線)		(供用直前年次)H27年度 (供用後年次)R4年度		(供用前現道→供用後現道)		(供用直前年次)H20-22年度 (供用後年次)H30-R2年度		
費用対効果	B/C	総費用	199億円		総便益	350億円		基準年	
分析結果	1.8	事業費	185億円		走行時間短縮便益	259億円		平成20年	
(当初)		維持管理費	14億円		走行経費減少便益	44億円			
					交通事故減少便益	47億円			
費用対効果	B/C	総費用	430億円		総便益	700億円		基準年	
分析結果	1.6	事業費	390億円		走行時間短縮便益	557億円		令和4年	
(事後)		維持管理費	40億円		走行経費減少便益	128億円			
					交通事故減少便益	16億円			
事業遅延によるコスト増	費用増加額		— 億円		便益減少額		— 億円		

	事業遅延の理由 ・特になし
	交通量変動の理由 ・特になし
	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ① 円滑なモビリティの確保 ・南三陸町歌津から国管理空港である仙台空港へのアクセス性が向上（整備前：112分→整備後：85分） ② 安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス性が向上（南三陸町歌津～石巻赤十字病院 整備前：52分→整備後：40分） ③災害への備え ・宮城県緊急輸送道路ネットワーク計画において、「第一次緊急輸送道路」に位置づけあり ・国道45号（第一次緊急輸送道路）の代替路となる <p style="text-align: right;">他10項目に該当</p>
	その他評価すべきと判断した項目 ・特になし
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 ・特になし
	その他評価すべきと判断した項目 ・特になし
事業評価監視委員会の意見 ・「今後ネットワークとしての事後評価を実施し、改善措置の必要性等を検討する」という対応方針（案）は妥当である。	
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・周辺道路の整備状況 三陸沿岸道路 平成29年 3月 南三陸道路（志津川IC～南三陸海岸IC 延長3.0km）開通 平成29年 3月 矢本石巻道路4車線化（石巻女川IC～桃生豊里IC 延長12.1km） 平成29年12月 南三陸道路（南三陸海岸IC～歌津IC 延長4.2km）開通 平成30年 3月 本吉気仙沼道路（大谷海岸IC～気仙沼中央IC 延長7.1km）開通 平成30年 7月 唐桑高田道路（陸前高田長部IC～陸前高田IC 延長6.5km）開通 平成31年 2月 歌津本吉道路（歌津IC～小泉海岸IC 延長10.0km）開通 平成31年 2月 本吉気仙沼道路（Ⅱ期）（本吉津谷IC～大谷海岸IC 延長4.0km）開通 平成31年 3月 唐桑高田道路（唐桑小原木IC～陸前高田長部IC 延長3.5km）開通 令和 2年 2月 気仙沼道路（気仙沼中央IC～気仙沼港IC 延長1.7km）開通 令和 2年11月 歌津本吉道路（小泉海岸IC～本吉津谷IC 延長2.0km）開通 令和 3年 3月 気仙沼道路（気仙沼港IC～唐桑半島IC 延長7.3km）開通 令和 3年 4月 歌津本吉道路の歌津北ICにおいて、北向きランプの追加に着手	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 ・事業の目的に対する効果を概ね発現しているが、今後ネットワークとしての事後評価を実施し、改善措置の必要性等を検討する。	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 ・当該事業の整備目的について効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。 なお、今後のネットワーク完成にあたり、今回同様ネットワーク全体での効果の検証に努める。	
特記事項 ・特になし	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。